**夏場の新型コロナウイルス感染症対策について**

令和2年6月11日

総　務　課

　新型コロナウイルスの感染を防ぐ「新しい生活様式」では、3つの基本である

1．身体的距離の確保

2．マスクの着用

3．手洗い

を徹底し、3密（密集、密接、密閉）を避けることが求められています。

夏を迎えるにあたり、熱中症にも注意しながら感染症対策を行っていくため、社内で留意すべきポイントを以下にまとめました。

　これを原則的な基準とし、各部門において具体的な対応を進めていただくようお願いします。

**１．マスクの着用について**

　　マスクは飛沫の拡散予防に有効であり、社内でクラスターが発生することを防ぐために、重要なツールです。

ただし、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。高温・多湿環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、十分に留意してください。

【屋内で仕事をする場合】

① 基本的な咳エチケットとして、マスクやフェイスシールド（フェイスガード）を着用してください。

　 　　 ※ フェイスシールドのフィットには個人差があるため、個人で適切なものをご用意ください。

（マスクと同様の取扱い）

　　 　※ 適切なフェイスシールドを着用している場合、マスクの着用は省略可能とします。

　　 　※ 透明マスクやクリアマスクと呼ばれる繊維系以外のマスクもマスクとして扱います。

② 機械職場（メインフロア）などの広い空間や、換気が行き届いた場所などで、周囲の人との距離が2m以上ある場合は、マスクやフェイスシールドを外しても差し支えありません。

③ デスクワーク職場など、通常の室内空間においては、周囲の人との距離が2m以上あり、会話をしなければマスクやフェイスシールドを外しても差し支えありません。会話をする場合は、マスクやフェイスシールドを徹底してください。

④ 休憩時間は、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクやフェイスシールドを外して休むよう心がけてください。

【屋外で仕事をする場合】

① 周囲の人との距離が2m以上あれば、マスクやフェイスシールドは外してかまいません。

② 少しでも体調に異変を感じたら、速やかに冷房の効いている場所へ移動して休んでください。

【車に乗る場合】

① 1人で乗車する場合は、マスクは外してかまいません。降車する際に、エチケットとして換気してください。

② 複数名で乗車する場合は、全員がマスクをし、換気を徹底してください。

③ 車から降車した後は、手指消毒や手洗い、うがい等を心がけましょう。

**２．水分補給について**

マスクの保湿効果でのどの渇きを感じにくくなるため、脱水症状に気づくのが遅くなる傾向があります。

のどが渇いたと感じる前に、こまめに水分を補給しましょう。

食事以外に、デスクワーク職場では1.2ℓ以上、機械職場では1.5ℓ以上が目安です。

【水分補給や昼食等で一時的にマスクを外す場合の注意事項】

① マスクを片耳にかけたり、顎にかけたりした状態では、マスクの外側についたウイルスがマスクの内側につき、口内へ入る恐れがあります。

② マスクはひもを持って脱着し、内側に折り、マスクの内側を清潔に保ちましょう。また、ティッシュに挟んだり袋に入れたりするなど、外側が机などに触れないようにしましょう。

**３．エアコン使用時の換気について**

エアコン使用時は窓や戸を閉めて空調効果を高めるため、換気が滞りがちになり、ウイルスの密度が高まることでクラスター感染等を引き起こすリスクがあります。

※エアコンは室内の空気を循環させており、換気しているわけではありません。

　　熱中症予防のためにはエアコンの活用が重要ですが、新型コロナウイルス対策のためには、冷房中であっても窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。

時間を決めるなどして定期的に換気を行う場合は、2方向以上の窓をできるだけ大きく開け、短時間で一気に行いましょう。

**４．日頃の健康管理について**

　　毎朝、定時の体温測定、健康チェックを継続してください。これらは、熱中症予防にも有効です。平熱を知っておくことで、発熱に早く気づくこともできます。日ごろからご自身の身体を知り、健康管理を充実させましょう。

発熱したり体調不良を感じたりした時は、不用意に出勤せず、必ず自宅で様子を見るようにしてください。

また、同居家族等の体調についても同様に確認をお願いします。会社のチェックシートを一人一枚使うなど、家族全員が体温測定と症状の有無をチェックできるよう工夫をお願いします。

以　　上